

李 賢主 氏

イ ヒョン ジュ
駐大阪大韓民国総領事

韓国料理や韓流ドラマ、K-POPなどが日本で日常化しているように、韓国でも日本の映画や小説の人気が高い。「現代の文化や道徳観に韓日の差異はほとんどない」と語る李総領事に、近年の状況や今後両国の文化が共に発展していくためのお考えについて伺った。

お互いの文化を楽しむ時代

韓国における文化施策は、現在のように経済発展する以前は制度や施設整備に力を注いできました。やがて急速な経済発展と民主主義の定着によって、人々は10年程前からいわゆるK-POPや韓流映画などのコンテンツに注目するようになりました。その内容は自由奔放なものもあって、「自由主義すぎる」と眉をひそめる年配者もおられるほどです。また、金大中大統領(在任:1998~2003年)時代に日本文化の輸入が緩和されたこともあって、今では日本の映画や小説も多く見られます。日本の小説がベストセラーの上位にランクされることも珍しくありません。

とはいえ私の学生時代(1960~70年代)は、「親日」という言葉は「愛国」の反対を意味するものでした。日本の文化はもちろん、多くの人は日本語を勉強することにも抵抗感をもっていました。しかし両国の経済交流が活発になるにしたがって反日的な考えはどんどんなくなり、今や両国の若者を中心にお互いの文化を楽しむことは日常的で、両国間の文化交流はもはや話題にもならなくなりました。

外国に来た感じがしない

現在、日本には約2万8千人の韓国人留学生がおり、そのうち約2千人が関西で学んでいます。一方、韓国には約4千人の日本人留学生がいます。また、査証相互免除協定(2006年3月1日)によって、観光や語学研修などで韓国を訪れる日本人はビザなしで3か月間滞在できるようになるなど、両国の距離はますます近くなりました。

現代文化の面でも両国の差異はあまりなく、私は22年ぶりに日本へ赴任しましたが、外国に来たという感じがあまりしません。韓国料理も浸透しています。日本で知られている韓国料理の多くは庶民料理で、これがじつに美味しい。また、日本ではあまり知られていませんが、韓国の南西部にある全羅道(チョルラド)地方の料理もおすすです。肉や魚、野菜など豊富な食材を使い、

一度に何種類もの料理を並べて楽しみます。食いしん坊の私はつい食べ過ぎて



全羅道料理(写真提供:駐大阪大韓民国総領事館)



駐大阪大韓民国総領事館にて

しまうのですが、妻からはいつも体重を気にするよう言われるので、家では控えめにしています。

異なる文化を共通の資産に

韓国では儒教的な道徳観が浸透しているといわれますが、これも両国で差異はないと感じます。日本では今でも『忠臣蔵』の物語が好まれていますし、混んだ電車で若い人が高齢者に席を譲る風景を見かけます。

私は韓国人も日本人も文化的には同じ壺の中に住む者同士で、異なる文化も共通の資産だと思っています。だから韓国人と日本人の異なる考え方を交えることで、新しい価値観や文化コンテンツも創造できると思います。シェイクスピアがイタリア文化をもとに『ロミオとジュリエット』を書いたように、韓国人が『忠臣蔵』をモチーフにした映画を作ったり、演劇に歌舞伎を取り入れたり、あるいは日本人が韓国の小説を映画化することもできるでしょう。そうすることで両国の文化資源が2倍にも3倍にもなり、韓国と日本の創造的な文化交流につながると思います。

李 賢主 (Lee Hyun-ju) 氏

1956年韓国ソウル出身。1979年ソウル大学貿易学科卒業後、韓国外務部入部。1986年早稲田大学研修後、1987年駐日本大使館2等書記官、1989年駐ポーランド大使館1等書記官、1997年韓半島エネルギー開発機構(KEDO)北朝鮮事務所代表、2001年駐米国大使館参事官、2004年駐中国大使館公使などを経て、2011年11月より現職。1997年禄租勤政勲章叙勲。主著にKEDO時代の体験をまとめた『たいまつとろうそく(2003年・朝鮮日報社/日本語訳『北朝鮮・断末魔の虫瞰図(2004年・ビジネス社)』がある。